



宿泊を伴う指定管理施設の課題と今後の方向性

安芸高田市には、年間約170万人の観光客が訪れており、この観光客を受けられている宿泊可能な観光施設に、神楽門前湯治村（美土里町）、たかみや湯の森（高宮町）、川根エコミュージアム（高宮町）があります。どれも施設の管理運営は指定管理者に担っていただいております、この3施設を合わせると、週末や休日などを中心に、年間約25万人もの観光客が訪れています。これは、指定管理者の献身的な経営努力の結果と考えており、頭が下がる思いです。これらの施設は、安芸高田市に人を呼び込み、地域の活性化に貢献しています。私もこれらの施設は、安芸高田市の活性化に欠かせない大切な施設と考えており、将来にわたって継続して守っていかなければならない施設であると認識しています。一方で、建設から20年以上が経過し、いずれ施設の更新が必要となり、更新費には数億円単位の多大な費用が掛かるのも事実です。この費用を捻出するためには、観光客を増やし、収益をあげ積み立てる必要がありますが、現状の運営では難しい状況になってきていると感じています。そのため「観光」という枠だけでは解決

策は見いだせず、「福祉」分野での活用もできないかと考えています。市民の健康増進という考え方をすれば、宿泊、入浴、食事を備えた施設が市内に複数あることは強みになります。これらの施設を活用し、平日など稼働の低い時に、例えば高齢者の皆さんの健康増進、いわゆる「湯治」を目的として利用すれば、健康寿命が延びるとともに行政的にも医療費の抑制につながり、大きなメリットがあります。さらには、平日に施設を利用す

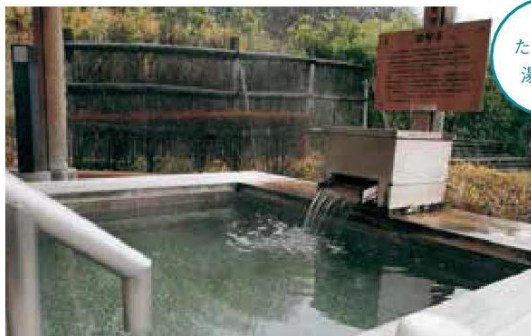
ることで、施設側として稼働率が上がり、施設更新の経費を積み立てていけると考えています。このように、観光だけ、福祉だけの縦割りでの事業を実施するのではなく、市が一丸となって現在ある資源を活かしながら、効率的、効果的に行政運営することで、「訪れたい」そして「いつまでも住み続けたい」安芸高田市にしていきたいと思っております。



神楽門前湯治村



川根エコミュージアム



たかみや湯の森